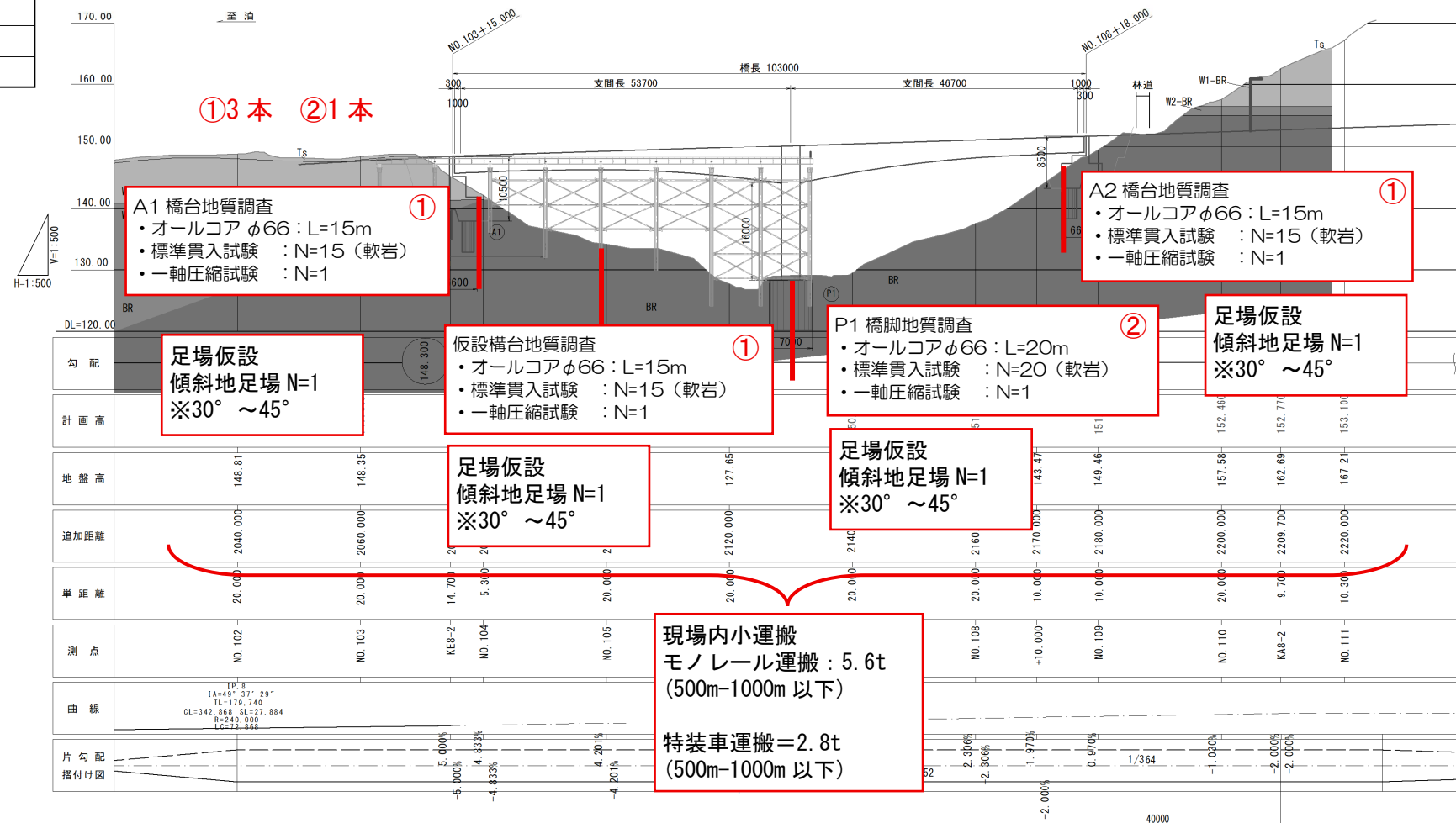
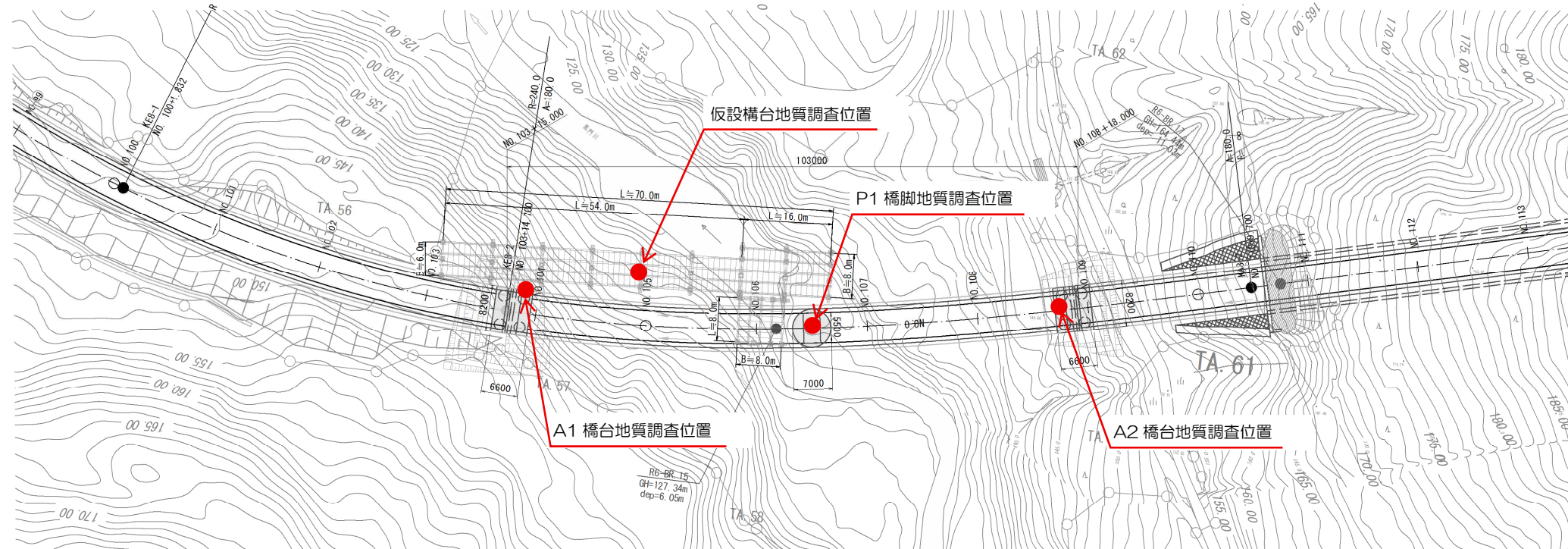


橋 梁 一 般 図 S=1:500

側 面 図 S=1:500



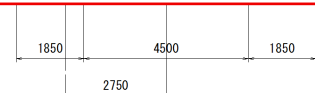
平 面 図 S=1:500



時代	地層名	記号	地質層序表
			土質・岩質
第四紀	表土層	Ts	砂質シルト、砂混じりシルト、有機質シルト
	崩壊土	Dt	礫混じり粘土、礫混じり砂質シルト、粘土混じり礫、礫混じり砂質粘土、粘土混じり砂礫
	礫質土層	Hg	砂礫、粘土混じり砂礫
新第三紀	強風化基盤岩	W1-BR	強風化凝灰岩、強風化凝灰角礫岩
	風化基盤岩	W2-BR	風化凝灰角礫岩、風化凝灰岩
	基盤岩	BR	凝灰岩、凝灰角礫岩

上部工断面図 S=1:100

- ◆地質調査の想定数量の考え方
  - ・既往の地質調査結果より、全て軟岩にて数量想定
  - ・杭先端までの地層確認のため、地質調査の延長は橋台 L=15m、橋脚 L=20m で推定
  - ・橋台の地質調査は、現在想定した橋台位置のうち、傾斜前側となる橋前面側（谷側）での実施を想定
  - ・一軸圧縮試験は、杭先端付近、各 Br で 1 箇所を想定
  - ・仮設橋台用に A1-P1 間の 1 箇所で地質調査を想定 橋台同様 L=15m で推定
- ◆橋梁詳細設計のためのボーリングについて
  - ・急峻地形につき、地層傾斜確認のための追加 Br や ジャスト位置での Br が必要となる可能性があるが、現時点では未確定。現時点で概算数量を計上する場合、当該数量と同数量を見込むのが安全側の考え方である。



設計条件

路線名称	泊陸奥横浜停車場線
交差条件	馬門川
道路規格	第3種第4級
設計速度	V=50km/h
橋の耐荷性能	
橋長	L=103.000m
桁長	L=102.400m
支間長	L=53.700m+46.700m
幅員	有効幅員 W=7.0m (0.75+2.75+2.75+0.75)
構成	総幅員 W=8.2m
斜角	90° 00' 00"
設計活荷重	B活荷重
雪荷重	W=1.0kN/m <sup>2</sup>
舗装	車道 アスファルト舗装 t=70mm
構成	歩道 ー
形式	上部構造 P C T ラーメン橋 (張り出し架設工法)
	下部構造 淨T式橋台、柱式橋脚
	基礎構造 杭基礎 (深礎杭φ2000、φ7000)



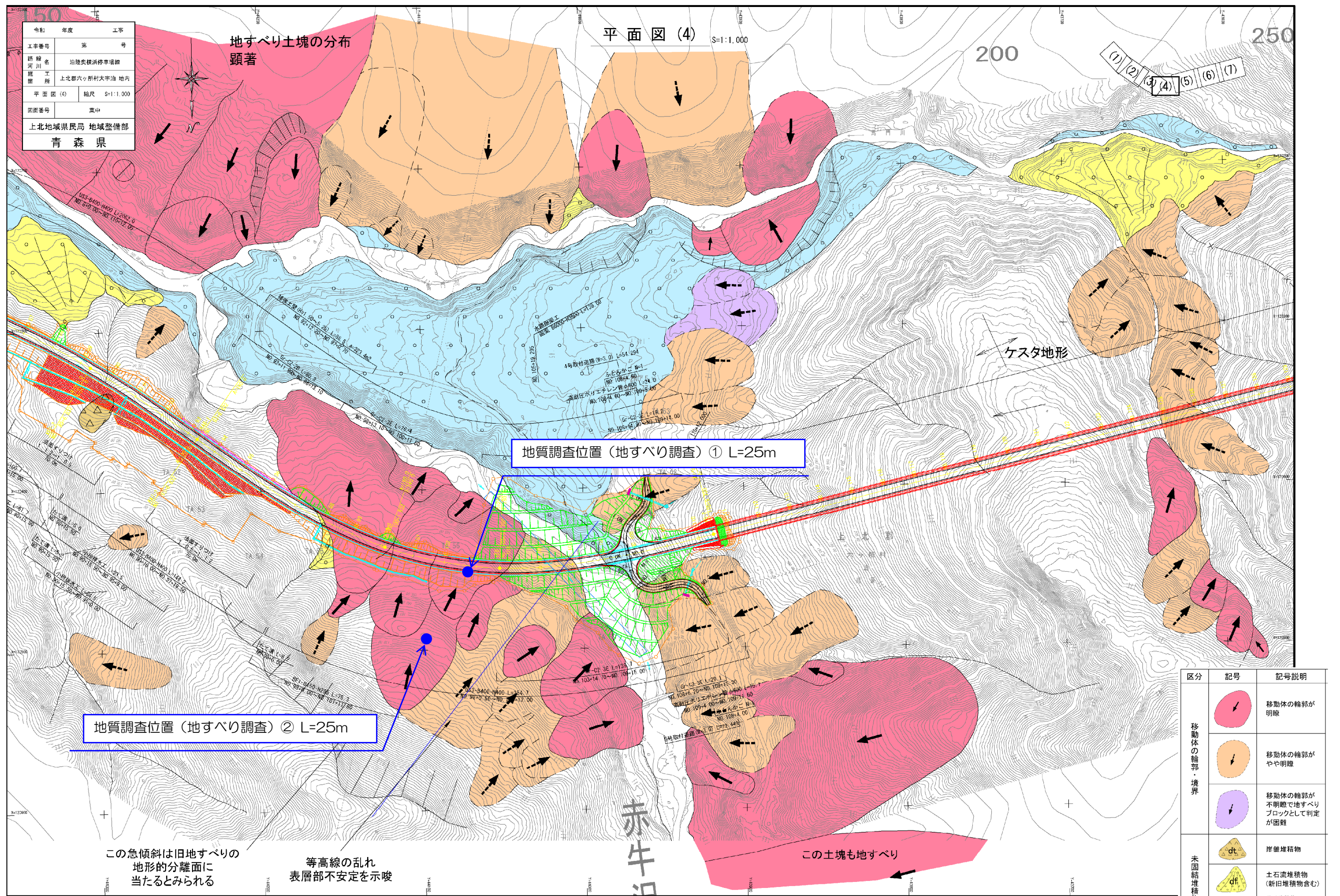


図-2.3.4 空中写真判読結果 (4)